

## 五月の立山連峰

藤井 諭

5月の立山連峰を9年ぶりに登ってきた。1日早朝に松江駅を出発、金沢で北陸新幹線に乗換え（サンダーバードは金沢止り）、富山から室堂に入った。一面に白の別世界を歩きみくりが池温泉に到着した。既にたくさんのカメラマンが、大日岳に向かってカメラを構えていた。私も夕日に染まる大日岳をバッチリ撮影した。



2日は天気恵まれ、別山から立山三山の縦走をした。朝の雷鳥沢は雪が締まり、アイゼンを効かせながら高度差450mを登り切った。10時半に別山に立つと、北にピラミダルな劔岳が堂々と聳えている。東には後立山連峰が白馬岳から針ノ木岳まで一望、遠く槍穂から白山までクッキリだ。真砂岳を越えて富士ノ折立の登りはキツく、大汝山を越えて雄山へ着いたのは15時前で疲れてきた。ガレ場の下りを一ノ越へ、そして雪の道を室堂へ下りみくりが池温泉へ帰着した。



3日は雷鳥沢から奥大日岳へ登る日だ。室堂乗越からピークへの急斜面は、まるで真っ青な空に向かって登っているようだった。奥大日岳の山頂から劔岳に対面すると、端正な三角形で天を指し長大な早月尾根を従えていた。ここで出会った雷鳥は（右写真）、この山行中に撮影した約10羽の中で最も美形だった。帰路は急な雪稜をピッケルとアイゼンを効かせて慎重に下った。北側には巨大な雪庇が張り出し、南の地獄谷からは激しく水蒸気が吹き出していた。この日は雷鳥沢ヒュッテに宿泊したが、古さが気になった。

9年前もみくりが池温泉で毎日朝晩に入浴、これが帰路で困った現象となり、新幹線で隣に座った若い女性に顔をそむけられた。みくりが池温泉の成分は硫黄泉、いわゆる卵の腐った臭い。繰り返し入浴した本人は、マヒして気がつかなくなったのだ。今回はそのようなことがないように、出る前に洗い流すことに心がけた。

5月の立山連峰は、何度行っても美しくまた楽しい。19mの雪の大谷を越えると純白で広大な室堂平、雪の大日岳をピンクに染めて沈む夕日、ブルーに透き通る立山三山、奥大日岳から対面する劔岳、そして頻繁に出会う雷鳥は白と黒に赤が混じる美しさ、と見所いっぱい。9年前と違ったのは室堂付近での外国人の多かったこと。特に中国人と韓国人の団体が多かった。雪の経験がないのか、雪道をスニーカーでキャリーバッグを引き苦労していた。みくりが池温泉では英語のアナウンスもされていた。スキーヤーやボーダーは雷鳥沢では滑っていたが劔沢にはいなかった。

今回の山行は9月のMHC遠征登山の偵察の目的もあった。別山からは次回のコース、劔岳と劔沢をじっくり観察した。みくりが池温泉は食事はホテル並で豪華、きれいでウォッシュレットまで完備されている。雷鳥沢にある雷鳥荘は温泉もあり眺めも良さそうだった。弥陀ヶ原を散策しながら一泊するのも魅力的、アルペンルートでの観光も可能だ。秋の遠征では多数の会員の参加を期待した。